

行政調査報告書「建設常任委員会」

平成 23 年 7 月 11 日(月)～13 日(水)

■山口県下関市『生涯学習プラザ・中央図書館の整備事業について』



下関市の生涯学習プラザ・中央図書館は、老朽化した公共施設を再整備し、生涯学習施設やホール、図書館などの複合施設として、平成 22 年 3 月に誕生した。愛称を「ドリームシップ」と名付け、客船をイメージした外観は、港町下関によく映え、市街地の一角に存在感を示していた。

中央図書館でのユニークな取り組みとしては、読書通帳と予約ロッカーがあり、読書欲を喚起したり、利便性向上に役立っていた。

全国初の新しい取り組みや施設の目新しさもあり、年間の新規登録者は 1 万人を超え、新たな図書館施設が新たな人の流れを生んでいた。本市においても、図書館を中心とした拠点施設の整備において、新たな人の流れの創出や周辺地域への活性化に、少なからず貢献できるのではないかと感じる事ができた。また、2 年目以降も利用者を増加させていくための工夫と方策も欠かせないと感じた。

■福岡県福岡市『市営住宅入居者募集における別枠世帯とポイント方式について』

公営住宅においては、入居できた人と入居できない人との間に生じる不公平感や、入居者の高齢化により自治会活動に支障が生じることが問題となっている。



福岡市では、住宅困窮事情を的確に把握し入居者選考に反映するポイント方式を導入し、また、若い世帯（子育て世帯や新婚世帯）の優先枠を設けて入居者の若返りを図っている。困窮度の数値化にあたっては、老朽度、狭さ、設備充実度などを中心に困窮度合いを積み上げ、採点表の完成度が高まった現在では、採点表による集計結果をもって決定している。これは、多くの事案を短時間で処理する上で、非常に有効であると感じた。本市でも今後、より住宅に困窮した人へ公平に住居を提供できる募集方法を検討していく必要がある。

■熊本県菊池市『交通体系に関する取組み（べんりカー・あいのりタクシー）について』



菊池市は、阿蘇の外輪山に囲まれ、3/4 が中山間・山間地帯、残りの 1/4 が市街地のある菊池平野である。

平成 13 年の旧菊池市長選挙をきっかけに、市街地における交通網の整備、路線バスの見直しが進められ、市街地に巡回バス（「べんりカー」）を運行し、中山間との移動には「あいのりタクシー」を利用するという方式を考え出した。地域の特性や運輸事業者の実態を上手に利用していると感じた。

本市における「あんくるバス」には、空白地帯を解消するという課題があるが、菊池市の例からも、事業の目的を明確にし、地域の特性にあった方法を探すことが必要であると感じた。